

## イチゴうどんこ病の発生が多くなっています

確実に防除を行い、被害を防止しましょう！

### [ 現在の発生状況 ]

11 月下旬現在，イチゴうどんこ病の葉における発生は，発病葉率及び発生地点率とも平年より高い。なお，果実における発生は平年並である（表 1）。

向こう 1 か月の気象予報（平成 21 年 11 月 20 日気象庁発表）によると，平年に比べ気温は高く，降水量は多く，日照時間は平年並か少ないと予想されている。

表 1 イチゴうどんこ病の発生状況（平成 21 年 11 月 4 半旬調査）

葉での発生状況					果実での発生状況			
発病葉率 (%)		発生地点率 (%)			発病果率 (%)			
本年	(順位) <sup>1)</sup>	平年 <sup>2)</sup>	本年	(順位) <sup>1)</sup>	平年 <sup>2)</sup>	本年	(順位) <sup>1)</sup>	平年 <sup>2)</sup>
10.0	(1)	2.2	78	(1)	41	0.7	(4)	1.3

1) 過去 11 年中の順位

2) 過去 10 年間の平均値

### [ 防除対策 ]

発生が多くなると防除が困難になるため，初期防除を徹底し，果実における発病を防ぐ。なお，薬剤防除にあたっては，表 2 を参考に防除を行う。

薬剤は，薬液が葉裏や葉柄にもよくかかるよう十分な量で，丁寧に散布する。また，薬剤耐性菌の出現を防ぐため，系統の異なる薬剤を散布する。

ミツバチ導入後は，ミツバチに影響する薬剤もあるので，十分注意する。

り病部は新たな伝染源となるため，病葉はできるだけ取り除き，ハウス外に持ち出して処分する。

薬剤によっては，薬害や果実への汚れを発生するものもあるので，使用にあたっては十分に注意する。

表2 イチゴのうどんこ病に登録のある主な薬剤（平成21年11月4日現在）

薬剤名	希釈倍数(倍)	収穫前 日数(日)	本剤の使用 回数(回)	有効成分
トリフミン水和剤	3,000～5,000	前日	5	トリフルミゾール
パンチョTF顆粒 水和剤	2,000	前日	2	シフルフェナミド+ トリフルミゾール
フルピカフロアブル	2,000～3,000	前日	3	メパニピリム
ダイマジン	2,000	前日	2	イミノクタジン+ フェンヘキサミド
サンヨール	500～1,000	前日	6	DBEDC
ジーファイン水和剤	750～1,000	前日	-	炭酸水素ナトリウム +銅

  

薬剤名	使用量	使用方法	本剤の使用 回数(回)	有効成分
硫黄粒剤	6～16g/2000 m <sup>3</sup> (高さ 2m, 床面積 1000 m <sup>2</sup> )	専用の電気加 熱式くん煙器で くん煙する	-	硫黄

農薬を使用する際は、農薬ラベルに記載の使用方法、注意事項等を守り、周辺作物への飛散（ドリフト）に注意して行って下さい。特に、収穫前日数、使用回数には十分注意して下さい。